

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7

TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL: <http://www.sairingi.com/>

携帯URL: <http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

平成27年度定時会員総会 開催される

平成27年度定時会員総会が平成27年6月5日(金)大宮ソニックシティ906号室にて開催された。本総会の審議内容は、平成26年度事業報告、収支決算報告、監査報告、名誉会員の選任、第45回埼玉県医学検査学会会長選出および平成27・28年度監事の選任についてであった。

総会は小山博史事務局次長の進行で、津田聡一郎会長の挨拶で始まり、つづいて五内川里子名誉会員の紹介があった。

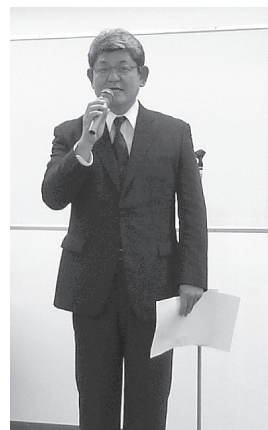
次に各賞表彰式が行われた。平成26年度埼臨技特別功労賞表彰は埼臨技前会長の砂川進氏(越谷市立病院)に、平成26年度埼臨技功労賞表彰は袴田博文氏(上尾医科中央グループ協議会)にそれぞれ授与された。永年勤続表彰は47名の会員が受賞され、総会では16名が表彰された。つづいて「埼臨技会誌」優秀論文賞



津田会長

が鳥山満編集委員長より発表があり、齋藤真紀子氏(浦和医師会メディカルセンター)の論文「学校検尿の蛋白定性検査におけるクレアチニン補正の有用性」が受賞された。受賞された方々に謹んでお祝いを申し上げたい。

総会は議案審議に先立って鈴木英之氏(さいたま赤十字病院)が議長に選出され、鈴木議長により総会役員が指名された。資格審査委員長は猪浦一人理事、資格審査委員は東部地区から小林竜一氏(白岡中



第45回埼玉県医学検査学会会長
並木薫氏



央総合病院)、南部地区から大地康文氏(さいたま市立病院)、西部地区から小林亜子氏(東松山医師会病院)、北部地区から稲山拓司氏(深谷赤十字病院)が任命された。また、書記は軍司雅代氏(埼玉県済生会川口総合病院)と川音勝江氏(JCHO埼玉メディカルセンター)が、議事録署名人には濱田昇一氏(メディカルトピア草加病院)と鈴木忠男氏(川口市立医療センター)がそれぞれ任命された。その後、鈴木議長は「18時30分現在の出席者数88名、委任状出席者数1,596名、議決権行使書数203名で、合計1,887名で



埼臨技特別功労賞



埼臨技功労賞

あり、本通常総会を構成する会員数は4月30日現在の会員数は2,426名、現在の出席者数は総会審議のための必要出席者数である1/2を超えており、『定款』第18条の規定により本総会は成立している。」と宣言された。

議事審議は、最初に猪浦資格審査委員長より、議事日程が提案された。それに沿い鈴木議長の進行により審議が始まり、第一号議案の平成26年度事業報告について津田会長、神山清志副会長、島村益広副会長、岡田茂治副会長から、第二号議案の収支決算について松岡優会計部長から、監査については遠藤敏彦監事より報告があった。質疑などはなく満場一致で可決された。第三号議案の名誉会員の選出は津田会長から砂川前会長を選出すると報告があり、異議なく承認された。第四号議案の第45回埼玉県医学検査学会学長選出は、津田会長より並木薫氏(埼玉県済生会栗橋病院)を推薦する旨の提案があり、異議なく承認され、並木氏が挨拶を行った。第五号議案の平成27・28年度監事の選任については、柴崎光衛役員推薦委員長(獨協医科大学越谷病院)より遠藤敏彦氏、細谷博光氏を推薦すると報告があり、異議なく承認され、これにてすべての議案が可決された。最後の質疑応答で会場より、埼玉県医学検査学会の演題発表における利益相反状態の開示に関する質問があり、執行部より「重要な事項であるため執行部として迅速に検討・対応を行う」との回答があった。



永年勤続表彰



「埼臨技会誌」優秀論文賞

総会終了後、第44回埼玉県医学検査学会の岩田学会長の代理で吉岡浩明実行委員長(埼玉県立循環器・呼吸器病センター)より公開講演や特別講演などについてのお知らせがあった。

本総会が円滑に開催できたのは、鈴木議長の円滑な進行と総会役員、出席者の協力および多くの会員の皆様からの委任状協力によるものです。この場をお借りいたし厚く御礼を申し上げます。

(文責：奈良 豊)

第44回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

「利益相反:COI」の「発表時スライド申告」をはじめます!

～ スライドの1枚目に申告を記載する ～

実行委員長 吉岡 浩明

利益相反の有無の申告は、日本臨床検査技師会の臨床検査の研究・調査における利益相反（COI）に関する指針によると、臨床研究の公正・公平さを維持し、学会発表での透明性、社会的信頼性を保持しつつ産学連携による臨床研究の適正な推進を図ることが目的です（第1条）。具体例は、学会等で発表する者は研究に関連する企業や営利団体との経済的な関係について過去1年における利益相反状態の有無を自己申告するというものです（第2条）。さらに詳しくは第4条に報酬は年100万円以上や年間の講演料が50万円以上等、細かく規定されており、これらを超える場合は所定の書式での申告が義務化されています。

今回の第44回埼玉県医学検査学会では、公益社団法人埼玉県臨床検査技師会からの要請により導入することになりました。ただし、本会の定款・規定には現在規定はないため、日臨技の規定に準拠するものですが、書面による申告の提出は要求しません。自己申告の方法は1つだけです。

★発表スライドの1枚目の最下段に下記の申告を記載する★

利益相反の有無：無

※この演題に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません

利益相反の有無：有

※この演題の発表に関連し開示すべきCOI関係にある企業名：

〇〇株式会社、△△製薬株式会社

詳細はJAMTのホームページ「日臨技とは」から、プルダウンメニュー中の定款・諸規定を選択します。P73から医学研究に係る利益相反規定、P77から臨床検査の研究・調査における利益相反（COI）に関する指針がP92まで記載されています。

最も大切なことは、利益相反の有無を開示し、以下のことを申告することです。

<対象者すべてが回避すべきこと>

本会会員などは医学研究の結果とその解釈を発表や公表する際は、純粋に科学的根拠と判断に基づいて行われるべきであり、その医学研究の資金提供者・企業の恣意的な意図に影響されてはならず、また影響が避けられないような契約を締結してはならない。

「一般演題募集の締切りが迫りました」

- 一般演題は自由な発表の場です。
- 学会テーマに合わせる必要はありません。

演題募集の締切りが7月15日(水)に迫りました。6月下旬の時点で演題申込みが少ない状況です。

一般演題は学会テーマを気にせずにご自分の専門分野についてご研究の成果をご発表ください。

お待ちしております。



求む!! イベントスタッフ!!

今年度開催される「深谷市福祉健康まつり」と「全国 検査と健康展」にてお手伝いいただける会員を探しています。(下記参照) 技師会活動に興味のある方、未経験者歓迎します。これをきっかけに他の施設の技師さんと交流してみませんか!

記

深谷市福祉健康まつり

日時;平成27年10月25日(日)10:00~15:00

会場;深谷市総合体育館(深谷ビックタートル)

内容;簡易血糖測定器を用いた血糖測定 他

全国 検査と健康展(埼玉会場)

日時;平成27年11月1日(日)10:00~15:00

会場;蕨市民体育館

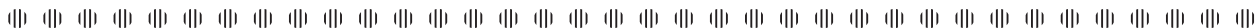
内容;簡易血糖測定器を用いた血糖測定・血管年齢測定・骨密度測定 他

参加希望、お問い合わせについては

防衛医科大学校病院 検査部 濱本 隆明

E-mail hamamoto@ndmc.ac.jp までお願いします。

以上



各研究班の研修会報告を致します。

テーマ **輸入感染症について学ぼう!「 Dengue・マラリア・エボラを中心に」**

主催 微生物・公衆衛生検査研究班

実施日時:平成27年 5月14日 19時00分~20時30分

会場:大宮ソニックシティ 603号室 点数:基礎教科-20点

講師:春木 宏介(獨協医科大学越谷病院 臨床検査部 教授)

参加人数:会員74名 賛助会員8名

出席した研究班班員:菊地孝司 長崎広美 穴原賢治 榊原外江 立塚梓 永野栄子
金田光稔 砂押克彦 荻野毅史 佐藤香里 酒井利育 牧俊一

研修内容・感想など

今回の研修会では、「輸入感染症について学ぼう!」というテーマで講演をしていただいた。輸入感染症とは、日本に存在しない感染症や稀な感染症と思っていた。だが、日本にも存在する市中感染症が海外で流行し、海外渡航者によって持ち込まれる場合や海外で医療行為を受けて医療関連感染で問題となる多剤耐性菌も含まれるとのことだった。マラリアについては、経験された症例で解説していただいた。西アフリカから帰国後、発熱と下痢で医療機関を受診したが、マラリアを疑わないため診断治療が遅れた症例と、最初からマラリアを疑い、血液塗抹標本でマラリア原虫を認め、すぐに治療が開始され治癒した症例だった。最初の症例は本人が

予防内服の重要性に気づいていたが、医療機関の受診には至らなかったもので、旅行業者や渡航者の教育・啓蒙が今後の課題と話されていた。

輸入感染症を見逃さないために、渡航歴を訪ねる習慣を身につける必要があり、渡航地域、期間、渡航に関する予防内服、ワクチンの有無、渡航先で医療機関を受診したかが重要とのことであるが、E型肝炎や狂犬病は潜伏期が1ヶ月以上、三日熱マラリアは数か月から数年を経て発症することもあるので、注意が必要である。

今回の講演を聴講し、輸入感染症の検査は、血液検査室、微生物検査室、一般検査室など複数の検査室で行うことから検査室間でのコミュニケーションにより、情報を交換し混合感染を見逃さないようにしなければならない。また検査を行う私たちが感染しないように検査体制をもう一度考え直す必要性があると感じた。

(文責：永野栄子)

テーマ **臨床化学初心者の為の研修会 No.1**
日当直時にも役立つ生化学検査の基礎とデータの読み方
～ 検体の取扱いから事例まで ～

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：平成27年 5月21日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 603号室 点数：基礎教科－20点

講 師：柴田 真明（上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院）

永井 謙一（埼玉県済生会川口総合病院）

安田 達明（上尾中央医科グループ 上尾中央臨床検査研究所）

参加人数：会員112名 賛助会員2名

出席した研究班班員：三木隆治 巖崎達矢 柴田真明 永井謙一 安田達明 藤本文志
大地康文 稲山拓司

研修内容・感想など

柴田技師からは日当直時にも役立つ生化学検査の基礎として採血管関連と検体保存の影響などについて講演していただいた。一般的な採血管に使われている抗凝固剤の種類や作用から分離剤の組成と比重による分離の原理、また分離剤の有無による検体保存の経時的変化、血清分離後に数日経過した検体の再遠心事例などを院内で検討した資料を交えてわかりやすく解説していただいた。さらに検体取扱いによる物理的衝撃（机からの落下）が及ぼす影響やNH₃の保存条件による経時的変化、血糖値測定に用いるフッ化ナトリウム採血管の経時的変化などについてもデータの変動割合や自身の経験談も含めて講義していただいた。

永井技師からは事例を交えた生化学検査データの見方・考え方について講演していただいた。日当直時の「判断に迷う異常な数値が測定された場合」に注目して、「TP」の数値が前日の前回値より大きく低下した事例や「Na・Cl・K」の数値が前回値と大きく異なる事例などを提示し解説していただいた。関連する要因として、他の検査項目との相関や関係性（低ALB血症時の補正Ca値の式やAST/ALT、BUN/Creaなど）、年齢の確認（ALPアイソザイムなど）、血清の外見（溶血や乳びの影響など）について講義していただいた。検査結果については様々な見方があるが、単独の項目で異常値を呈する場合、関連する項目や特徴を確認し、検体の性状や臨床情報などと合わせて総合的に判断することが重要であると再確認した。日々のルーチン業務内や日当直の現場などで遭遇する可能性がある事例であり、今回得た知見をもとに今後の業務に役立てていただきたいと思います。

(文責：稲山拓司)

テーマ **バーチャルスライドを利用した形態セミナー**
次世代は標本をデジタルデータで保存することになるのか、
可能性を体験して見よう

主催 血液検査研究班

実施日時：平成27年5月28日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：基礎教科－20点

講 演 1：デジタル標本を用いた形態学習の将来展望

講 師：林 文明（シスメックス株式会社北関東支店プロダクト営業課）

講 演 2：デジタル標本を用いた症例検討会

講 師：星 孝夫

参加人数：会員45名 学生2名

出席した研究班班員：星孝夫 網野育雄 根岸永和 羽鳥浩司 田中正 原誠則 圓田和人
岡安幸子 軍司雅代 橋口恵子

研修内容・感想など

今回の研修会は、「バーチャルスライドを利用した形態セミナー」というテーマで行った。バーチャルスライドは、病理検査部門では以前から利用されていたが、血液検査でも血液像分類装置の進歩により、利用されはじめている。シスメックス社のDI-60で作成したバーチャルスライドをもちいて、デジタル化した標本を体験した。まず、林氏によりバーチャルスライドの原理や操作法について解説が行われた。続いて血液研究班よりバーチャルスライドを使い症例検討会が行われた。今までの症例検討会では、ポイントになる細胞の写真や検査データの提示が数枚あり、そこから所見をとる形式が多く、解答を誘導されている感じでもあった。バーチャルスライドを使うことにより、実際の臨床現場に近い形で、デジタル化した標本を動かし所見を考えることが可能であると思われた。最近行われている血液検査認定試験を例に、所見をとる順序やポイントなどキーワードになる言葉の解説もあり、試験対策にも活用できると感じられた。取り上げた症例は、APL(末血)・CML(末血)・MDS(骨髄)の3例であった。血液検査では特に珍しくない疾患を使い、バーチャルスライドで見る細胞の感じと本物の標本との差を比較し易くする目的もあった。

まとめでは、バーチャルスライドの可能性について意見交換が行われた。バーチャルスライドは、染色性の劣化がない・複数用意することが簡単・細胞の精度管理調査に最適・細胞の座標を記憶でき教材として使える・究極のデジタルアトラスなどの可能性や有効点が挙げられた。また、デジタル画像の鮮明度や作成に掛かるコスト面などの課題も指摘された。血液研究班では、初めての試みとしてバーチャルスライドを使用するに当たり事前に2回のデモンストラーションを行った。手探りの研修会ではあったが、当初の目的であるバーチャルスライドの可能性を提示することは達成されたと考えている。

(文責：星 孝夫)

テーマ **敗血症における血清検査について学びましょう**

主催 血清検査研究班

実施日時：平成27年5月28日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科－20点

講 演 1：「プロカルシトニンの最新臨床応用」

講 師：山田 洋一（ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社）

講 演 2：「プレセプシンの基礎から臨床応用まで」

講 師：服部 亜樹子（株式会社LSIメディエンス）

参加人数：会員43名 賛助会員5名

出席した研究班班員：齊藤雅一 佐野悦子 大島まり子 相坂由里子 鈴木淳子
持田和紀 庄司和春

研修内容・感想など

今回は、敗血症における血清検査についての2演題の勉強会であった。

最初の演題は、山田氏による「プロカルシトニンの最新臨床応用」であった。プロカルシトニンとは、甲状腺のC細胞から分泌されるカルシトニンの前駆体である。しかし、細菌感染によりTNF- α などの炎症性サイトカインが産生されると全身の臓器よりプロカルシトニンが産生され、血中濃度が上昇するため敗血症の指標となる。また、重症度に応じて数値が高値となる傾向が認められる。臨床応用として心臓手術、肝・胆道手術、結腸直腸癌摘出術、誤嚥性肺炎における抗菌薬投与期間、結腸手術における腸損傷ダメージ評価などでのプロカルシトニンの有用性も説明していただき、とても興味深い内容であった。

次に、服部氏による、「プレセプシンの基礎から臨床応用まで」の講演があった。プレセプシンとは、可溶性CD14サブタイプ (s CD14-ST) である。CD14は、顆粒球などの表面マーカーであるが、細菌を貪食する際、一緒に取り込まれ、顆粒球内の酵素の作用によりs CD14-STとなって血中へ放出される蛋白である。名前の由来は、敗血症の早期の段階で上昇がみられる蛋白であるため、pre(前)+sepsis(敗血症)+protein(蛋白)からPresepsinと命名された。臨床応用としては、敗血症における抗菌剤使用の指標、免疫グロブリン製剤の治療効果判定なども可能である。また、好中球減少症の患者においても、敗血症性ショックの予後の推定に利用できるということであった。プロカルシトニンに劣らず有用であり、今後の導入が進むであろうと思われる。(文責：庄司和春)

テーマ **実技研修会に関する事前講習会 初級者・中級者**

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成27年 6月19日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 906号室 点数：専門教科ー20点

講 演 1：血液型検査・不規則抗体検査手技について (初級編)

講 師：渡邊 一儀 (獨協医科大学越谷病院)

講 演 2：カラム凝集法の特徴、抗体解離の手技と特徴 (中級編)

講 師：佐藤 祥子 (埼玉県済生会栗橋病院)

参加人数：会員96名 賛助会員4名

出席した研究班班員：渡邊一儀 山田攻 佐藤祥子 神戸考裕 今井厚子 長谷川卓也

研修内容・感想など

今回の研修会は、実技研修会に関する事前講習会という内容で、血液型検査・不規則抗体検査手技について (初級編)、カラム凝集法の特徴、抗体解離の手技と特徴 (中級編) の2つの講演が行われた。

血液型検査・不規則抗体検査手技の講演では、輸血検査の基本であるABO、Rh血液型検査と不規則抗体検査について説明が行われた。輸血検査の正しい手技を行うポイントはどこなのか、異常反応を検出したらどのように対処したら良いか、臨床への報告と輸血する血液の選択などを、輸血療法の実施に関する指針、改訂した赤血球型検査ガイドラインなどを参考に説明していただいた。

カラム凝集法の特徴、抗体解離の手技と特徴ではカラム凝集法の原理や手技のポイントについて説明が行われた。症例を用いた異常反応については、カラムの写真を示しながら説明をしていただいた。添付文書などに記載されている異常反応を目にすることは、非常に少ないので、とても貴重な経験であった。解離試験は酸解離を中心に原理や手技について説明があった。DT解離の経験はあるが、酸解離は良く知らないという意見が多く、時間をかけて手技の解説をしていただいた。

来月に行われる実技研修会ではABO、Rh血液型検査、不規則抗体検査 (解離試験) を予定している。今回の研修を受けたことにより輸血検査の手技や、操作の意味を理解して実技研修会に臨んでいただければ、更に実技の理解度が深まると思われる。

(文責：神戸考裕)

**平成27年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第3回 理事会議事録**

日 時：平成27年6月11日（木）19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ．行動報告 Ⅱ．報告事項

Ⅲ．承認事項 Ⅳ．議題

出 席：(理事)津田 神山 島村 岡田 矢作
小山 奈良 長岡 伊藤 猪浦
松岡 小島 濱本 藤井 長澤
武関 野瀬 神嶋

(監事)遠藤 細谷

本日の理事会の出席者は20名であった。理事の出席者は18名で、現在数20名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

Ⅰ．行動報告 (平成27年5月8日～平成27年6月10日)

5月8日(木)平成27年度公益社団法人第2回理事会：

津田、神山、島村、岡田、矢作、
小山、奈良、長岡、伊藤、松岡、
小島、濱本、藤井、神嶋、山口、
島山、野瀬、遠藤

5月16日(土)都道府県技師会専用サイト新会員システム取扱説明会：

津田、矢作、猪浦

5月18日(月)第1回表彰審査選考委員会：

神山、島村、矢作

5月22日(金)人間総合科学大学講義：神山

5月23日(土)平成27年度日本臨床衛生検査技師会定時会員総会：

津田、神山、岡田

5月26日(火)事務局作業：矢作、小山

5月29日(金)第44回第7回埼玉県医学検査学会実行委員会：岡田、長岡

5月30日(土)埼玉医科大学 丸木先生 旭日重光章受賞祝賀会：津田

6月5日(金)平成27年度定時会員総会：

津田、神山、島村、岡田、矢作、
小山、奈良、猪浦、長岡、伊藤、
松岡、小島、濱本、藤井、長澤、
神嶋、山口、島山、武関、野瀬、
遠藤、細谷

Ⅱ．報告事項

1 事務局

1) 6月5日、埼臨技平成27年度定時会員総会が開催された。

2) 5月16日、日臨技新会員管理システムの取扱説明会が開催された。

3) 5月18日、第1回表彰審査選考委員会を開催し、平成27年度埼玉県公衆衛生事業功労者表彰推薦者を選出し県へ提出した。

4) 平成28年春の叙勲推薦者を県へ提出した。

5) 平成27年度日臨技定時会員総会が開催された。

6) 平成27年度日臨技定時会員総会の成立および議決権行使書回収に関する協力のお礼とお詫び状が届いた。

7) 5月30日、埼玉医科大学 丸木先生 旭日重光章受賞祝賀会に津田会長が出席した。

8) 県より北朝鮮による日本人拉致問題に係る普及啓発活動への協力についての依頼があった。

9) 第52回日本臨床生理学会総会の後援を行った。

10) 日臨技より平成27年度助成金についての通知があった。

11) 日臨技より都道府県技師会主催の新入会員研修会開催の依頼があった。

2 総務部

1) 「埼臨技だより」第433号、6月15日発行予定

3 事業部

1) 平成27年度全国検査と健康展の企画書・予算書を日臨技へ提出した。

2) 6月23日、深谷市福祉健康まつり実行委員会へ濱本事業部長が出席予定。

3) 6月25日、蕨市民健康まつり実行委員会へ濱本事業部長が出席予定。

4 学術部

1) 都臨技及び千臨技より、臨床化学3都県合同研修会の共催の承諾を頂いた。

2) 関甲信支部・首都圏支部研修会（微生物、生理、一般、血液）の案内をだよりにて周知した。

3) 8月9月分の生涯教育研修プログラム、6月15日発行予定

5 精度保証部

1) 特になし

6 会計部

1) 平成27年度正会員費67名分335,000円、入会金46名分46,000円、合計381,000円の入金があった。

2) 定時総会議決権行使書回収委託費1,706名分85,300円の入金があった。

3) 生涯教育推進研修会助成金2研修会分100,000円の入金があった。

4) ㈱メテオより著作権使用料5,000円の入金があった。

5) 埼臨技だより第432号印刷代81,432円を石井印刷に支払った。

7 精度管理委員会

1) 特になし

8 一都八県会長会議

1) 特になし

9 日臨技関甲信支部

1) 特になし

10 日臨技

1) 特になし

11 第44回埼玉県医学検査学会

1) 5月29日、第7回実行委員会を開催した。

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

1) 会員動向（会費納入済）(平成27年度分)
平成27年6月1日現在
会員数 2,490名

(新入会員 103名[平成26年度会員数2,441名])

賛助会員 53社[平成26年度 79社]

2) じほう社MTJ契約満了に伴う継続購読契約について購読契約を継続することとした。

2 総務部

1) 平成27年度会員名簿作製業者について
4社に見積を依頼した結果、株式会社石井印刷の見積額が最も安価であったため、同社に作成を依頼することにした。

3 事業部

1) 特になし

4 学術部

1) 特になし

5 精度保証部

1) 特になし

6 会計部

1) 特になし

Ⅳ. 議題

1) 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

求人案内

- 医療法人社団 協友会 メディカルトピア草加病院
採用条件：正職員
連絡先：048-928-3117 総務人事課
- 高萩さくら眼科
採用条件：正職員 臨時職員(パート)
連絡先：042-978-8630 採用係 中村
- 医療法人 康麗会 越谷誠和病院
採用条件：正職員
連絡先：048-966-2711 総務課 高野
- 埼玉県済生会川口総合病院
採用条件：正職員
連絡先：048-253-8907 人事・総務課
- 株式会社ピーシーエルジャパン 病理・細胞診センター
採用条件：正職員 臨時職員(パート)
連絡先：049-234-7310
総務部 採用担当 古田島

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。



お知らせ

埼臨技事務所の夏期休暇について

平成27年8月10日（月）～14日（金）
上記期間、事務所はお休みになります。

あ と が き

7月に入り、そろそろ夏本番です！

夏になるとピヤガーデンがオープンします。やはり「夏」という言葉から思い出すのは、まず生ビールでしょう。また、枝豆が美味しい季節です。収穫したての枝豆で一杯やるのは夏の醍醐味です。

しかし、これからはゲリラ豪雨といわれる強い雨も予想されます。また、じめじめした日も多く、体調を崩しやすくなっています。

仕事終わりのビールを美味しく飲むためにも体調管理を徹底して行き、夏ばてしないように元気に頑張っていきましょう！

(奈良 記)

